

1 小单元名 武士の世の中へ

2 小单元について

本小单元は、学習指導要領、第6学年の内容(1)のウ「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること」を受けて扱うものである。

児童はこれまでに、縄文時代から弥生時代のくらしの変化や天皇中心の国づくり、貴族の生活について学んできた。縄文時代の学習で子どもたちは、加曽利貝塚での体験や見学活動を通して、自分たちの暮らす町の近くでも縄文人が生活していたことを知り、驚いていた。また、資料からその時代の特徴や変化の様子などを読み取りながら学習を進めてきたが、時代が進むにつれて歴史との距離感が広がり、遠い昔の物語のようにとらえている様子が見られる。

本小单元では、「源平の戦い」「鎌倉幕府の始まり」「元との戦い」の3つの歴史的事象を主に取り上げ、武士が勢力をもつようになり、これまでの天皇・貴族中心の政治から武士による政治が始まったことについて学んでいく。その際に、土地が大切なキーワードになると考える。当時の武士たちは、自分で開墾した土地を代々大事に受け継ぎながら暮らしていたが、平氏による政治により、土地や役職を奪われた人たちがいた。千葉市にゆかりのある武将である「千葉常胤」もそのひとりである。土地や役職をめぐり、平氏の政治に対し不満があった常胤らは、平氏打倒を目指す源頼朝に賛同し、源氏の勢力は一気にふくれ上がっていった。このことから、武士と土地のつながりを感じ、考えるのに千葉氏はとても適していると考えられる。

本学級の児童は、社会の学習が好きで、意欲的に取り組んでいる子が多い。しかし、なかには歴史は自分と関わりがないと感じている児童もいる。歴史漫画を好んで読む児童も多いが、人物の業績や歴史的な出来事について十分に理解しているとは言いがたい。

また、資料から事実を読み取ることはできても、そこから疑問をもったり、予想を立てたりすることを苦手としている児童が多い。既習の内容や複数の資料を比較したり、関連付けたりして考えることも難しい。

そこで、読み取らせたい内容を明確にした上で資料を精選し、提示していく。資料として歴史漫画を活用することで、人物の行動や思いが具体的につかめるのではないかと考える。また、難しい用語を平易な言葉に直したり、漫画だけでは読み取れない部分を補足する資料を併せて示したりすることで、漫画と補足資料を関連付けて考えたり、既習の内容と比較したりして考えることができるだろう。

源頼朝や千葉常胤などの人物の具体的な行動やエピソードを通して、児童の関心を高めるとともに、武士による政治が始まったことについて、より具体的に理解できるようにしていきたい。

3 児童の実態 (男子12名 女子11名 計23名)

① 社会科の学習は好きですか。

とても好き	2	・その時代や土地の良さを知れるから。(6) ・今の世の中を学べるから(4)・文化を知れることが面白い。(3)
好き	1 3	・知らない社会について知れるから。(3) ・将来に生かせる教科だから。(2)
あまり好きではない	6	・覚えるのが苦手。(7) ・覚えるのが面倒。(5) ・文章にまとめるのが苦手。(4)
好きではない	2	・資料の読み取りが難しい。(2)

② 歴史の学習は好きですか。

とても好き	10	・道具や人物について知れるのが面白い。(7)
好き	7	・現代に至るまでの出来事を知ることができる。(6) ・昔の人の生き方を知れるから。(4) ・歴史上の好きな人物が見つかったから。(3) ・昔の戦い方に興味があるから。(1)
あまり好きではない	5	・覚えるのが苦手。(4) ・人物名や出来事の名前を覚えられない。(3)
好きではない	1	・関係性を理解しづらい。(2)・昔のことすぎてわからない。(2)

③ 歴史は身近なものだと思いますか。

とても思う	4	・昔のものが進化して今の生活があるから。(6)
思う	14	・加曾利貝塚のような歴史のものがあるから(4) ・伝えられてきた歴史や文化があるから。(3) ・昔にも制度があったから。(2) ・お父さんが歴史が好きだから。(1) ・千葉県にも偉人がいるから。(1) ・自分のご先祖様が生きた時代だから。(1)
あまり思わない	3	・昔のことで分からない(4)
思わない	2	・歴史のものが近くにあまりないから。(3) ・かかわりがいいから。(2)

④ 千葉県内にある歴史に関するもので知っているものは何ですか。 (自由記述)

加曾利貝塚	千葉城	伊能忠敬	千葉氏	園生貝塚
23人	12人	2人	2人	1人

⑤ 次の言葉を知っていますか。 (5月18日実施)

	貴族	武士	藤原道長	平清盛	源頼朝	千葉常胤
知っている	8	13	2	2	2	0
聞いたことがある	13	8	14	13	12	5
知らない	2	3	7	8	9	18
言葉の説明	・お金持ちの人たち ・聖地に住む限られた人たち	・たたかう人 ・刀を持っている人 ・力に自信がある村人	・昔の偉い人 ・政治を行っていた人	・平家の主 ・太政大臣	・鎌倉幕府を開いた ・征夷大將軍	

⑥ 資料の読み取りは得意ですか。

とても得意	得意	あまり得意ではない	得意ではない
1	11	10	1
資料の読み取りで気を付けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・重要そうな部分にしるしをつける。 ・人物の働きに目をつける。 ・必要そうな部分を見つける。 ・見落としなく見る。 ・まず年表やグラフを見る。 		

⑦ 社会科で資料から読み取ったことを、今までに習ったことや他の資料と比較し、考えをもつことは得意ですか。

とても得意	得意	あまり得意ではない	得意ではない
1	6	13	3
<ul style="list-style-type: none"> ・資料の共通点を探すのが好き。(2) ・資料の違いを探すのが好き。(1) ・資料の取捨選択が楽しい。(1) ・教科書やノートの前のページを見て、進化していることに気付けるから。(1) ・比較しながら意見をもつことが楽しい。(1) ・読み取る活動が楽しい。(1) ・話し合いの中で、自分と違う意見に触れることで新しい発見があるから。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が覚えられない。(7) ・比較することが難しい。(6) ・資料からの読み取りが苦手。(6) ・まとめるのが苦手。(5) ・違いを見つけにくい。(4) ・前の学習を覚えられない。(3) ・文章にするのが難しい。(3) ・読むのが苦手。(2) 		

《考察》

本学級の児童は、歴史の学習に前向きに取り組んでいる児童が多く、現代の生活との違いや過去の出来事、歴史上の人物の働きについて興味をもっていることがわかった。しかし、「覚えるのが苦手・面倒くさい」「昔のことすぎてイメージがわからない」といった理由で、歴史の学習に関心や興味をあまりもてていない児童もいる。

歴史で扱う語句や人名に関しては、未習のものであってもほとんどの児童が知っている、もしくは聞いたことがあるという結果が出た。しかし、知っている児童の説明を聞いてみると貴族については「お金持ち」「聖地に住む限られた人たち」といった、今回の質問の意

図とは違った貴族を思い浮かべていたようだった。また、知っている歴史上の人物を書かせたところ、真田幸村、織田信長などのドラマで使用された人物や、人気のある人物の名前が多くあがり、歴史への関心の高さが表れている。しかし、人物名や語句は答えられても、未習であることから、それぞれについて正しく説明できた児童はほとんどいなかった。

歴史を身近に感じているかの項目では、身近に感じている児童が約8割いることがわかった。しかし、「昔のものが進化して今の生活があるから。」「歴史のものがあから。」と、ものを基準に考えている傾向がつかめた。

資料の読み取りについては、得意だと感じている児童と、そうでない児童が約半数ずついることがわかった。しかし、得意だと感じている児童の中で、事実をつかむことはできるが、そこから「もっと知りたい。」「どうしてそうなったのだろう。」と、考えを深めていける児童は少ない。読み取ったものを以前の学習と比較したり、考えをもつことが苦手な児童は約7割おり、「できる」と答えた児童でも、日頃のノートを見てみると、疑問をもったり予想を立てられていなかったり、感想も学習内容に沿ったことが書けていなかったりするものが多い。

これらの結果から、歴史的事象や現代とのつながりを見つける際に、人物の功績やはたらくに、さらに目を向けられるようにしていきたい。また、一人の武士を通して、一つの流れとして学んでいくことで、当時の武士にとっての土地の大切さ、平氏に対する不満に気づけるようにしたい。そこで、深くかかわっている「千葉常胤」を活用することが効果的と考えた。個人で予想を立てにくい実態から、グループでの話し合い活動を通して、友達の意見に触れることで予想を立てられるようにしていきたい。また、学習のなかで漫画をメインの資料として扱っていく。漫画では、登場人物の表情や行動について、読み取りやすく描かれている。しかし、漫画そのもので使われているセリフは、子供たちには、わかりづらい言い回しであったり、小学校や日常生活の中で使うことのない土地の名前や、習うことのない人物名が入っていたりする。そのため、セリフの一部をわかりやすいように書き換えることや、注釈を入れるよう工夫し、思考の妨げになりにくいようにする。これにより、児童には当時の武士の行動や思いを読み取りやすくなると思う。また、振り返った時や、資料からの情報と比較するときに、前時までの学習を思い出せるよう、日頃から必要な場面ではノート用の資料を配布し、気になったポイントや、情報を読み取った部分にしるしを付けるようにしてきた。本単元では、学級全体でも確認できるように、各小単元でのキーワードや、出来事についての掲示物を作る。また、資料から自分の力で読み取れるように、着目するポイントを示した掲示物を作成し、自分の力で読み取れるようにしていきたい。

4 知識の構造図

中心概念

源頼朝、義経らの働きによって武士による政治が始まり、頼朝は、千葉氏をはじめとする武士をご恩と奉公という主従関係によって統率した。しかし、元寇で恩賞を与えられなかった武士たちは不満をもち、幕府の力は弱まった。⑧

↑
まとめる

社会的事象 (具体的知識)

① 貴族が華やかな生活をしている一方、地方の有力な農民は、田畑を切り開いて領地を拡大し、自分の領地を守るために武芸にはげみ、武士となった。

・ 武士・武芸
・ 豪族・領地

② 武士のなかで勢いが強かった平氏は、平清盛を中心に、藤原氏に代わって政治を行うようになった。

・ 武士団・平氏
・ 平清盛・源氏

③ 頼朝は、千葉氏など平氏に不満のある武士を仲間にして平氏を滅ぼした。④ (本時) ⑤

・ 源平合戦
・ 征夷大将軍
・ 源頼朝
・ 源義経
・ 千葉氏

⑥ 源頼朝は千葉常胤の助言により鎌倉に幕府を開いた。頼朝は、千葉氏をはじめとする武士をご恩と奉公の関係で従えた。

・ 幕府
・ ご恩と奉公

⑦ 承久の乱後、幕府の力は西国まで及ぶようになり、執権の北条氏を中心とした幕府は法律や裁判制度を整えた。

・ 執権
・ 御成敗式目
・ 北条氏

⑧ 元は日本に服従を求めてきたが北条氏が退けた。全国から集まった武士は恩賞を得るために一所懸命に戦ったが、領地を与えられず、幕府と武士の関係が崩れた。

・ 元寇
・ 一所懸命
・ つつはう

用語・語句

問題解決的な
学習の過程

つかむ

調べる

5 小単元の目標

- 武士のくらし、源平の合戦、鎌倉幕府のはじまり、元との戦いとそれらにかかわる人物のはたらきを通して、武士による政治が始まったことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働きについて考えようとしている。
- 武士のくらしの様子や願いから学習問題を見だし、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いや働きについて思考・判断したことを適切に表現する。

6 小単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的な事象への関心・意欲・態度	○武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きに関心をもち、進んで調べようとしている。
社会的な思考・判断・表現	○武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、学習問題と予想、学習計画を考え、表現している。 ○武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いや働きについて思考・判断したことを適切に言語などで表現している。
観察・資料活用の技能	○武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きについて、資料を活用して必要な情報を集めて読み取っている。
社会的な事象についての知識・理解	○武士による政治が始まって新たな時代を迎えたこと、源頼朝が鎌倉幕府を開き、武士の力が全国に及ぶようになったこと、元との戦いが鎌倉幕府の全国支配に大きな影響を及ぼしたことを理解している。

7 小単元の指導計画（8時間扱い）

過程	時間	主な学習活動と内容
つかむ		<ul style="list-style-type: none"> ○「武士のやかたの様子」を見て、武士の生活の様子、武士と貴族の違いなどについて気づいたことを話し合い、学習問題を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・貴族のやしきと武士のやしきの違いに気付く。 ・地方の有力農民は田畑を切り開いて領地を拡大した。 ・領地を守るために武芸にはげみ武士となった。 ・武士が政治を行ったのではないか。 ○ 学習問題を作る <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>武士の登場によって世の中はどのように変わり、武士はどのような政治を行っていたのだろうか</p> </div>

		<p>○予想を立て、学習問題を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有力な武士がいたのではないか。 ・政治を誰が中心となって進めていったのか。 ・どのような政治の内容だったのだろう。 ・どれぐらい続いたのか。
調 べ る	2	<p>○武士はどのようにして勢力をのぼしていったのか、平氏による武士の政治のはじまりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士団の中でも、源氏と平氏が朝廷の命令で反乱をしずめていた。 ・平治の乱でより勢いのついた平氏が藤原氏に代わり、政治を行うようになった。 ・源氏が石橋山で敗れた。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">武士のなかで勢いが強かった平氏は、平清盛を中心に、藤原氏に代わって政治を行うようになった。</p>
	3 (本時)	<p>○頼朝が武士たちを味方につけ、再起するまでの経緯を資料から読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉氏は相馬御厨の所有権を奪われた経緯から、平家に不満があった。 ・平氏一族による独裁政治に、貴族や他の武士達のあいだで不満が高まった。 ・源頼朝が平氏を倒そうと兵を挙げると、自分たちの領地を認めてくれる新しい頭を求めている武士たちが集まった。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">頼朝は、千葉氏など平氏に不満のある武士を仲間にして勢力を拡大した。</p>
	4	<p>○頼朝はどのようにして平氏を滅ぼしたのか、地図や年表から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源義経のはたらきによって、平氏を滅ぼした。 ・日本中の武士が、源氏と平氏に分かれて戦った。(源平合戦) ・源氏の頭領として、源頼朝が征夷大將軍に任ぜられた。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">義経らのはたらきによって源平合戦に勝った頼朝は、征夷大將軍になった。</p>
	5	<p>○頼朝は、なぜ鎌倉に幕府を開いたのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻めにくい地形。 ・京都から遠いので朝廷の影響を受けにくい。 ・千葉常胤の助言により、関東を固めた。 <p>○千葉常胤の領地が源平合戦、奥州合戦の後増えた資料からご恩と奉公の主従関係が成り立っていたことを資料から読み取る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">源頼朝は千葉常胤の助言により鎌倉に幕府を開いた。頼朝は、千葉氏をはじめとする武士をご恩と奉公の関係で従えた。</p>
	6	<p>○頼朝の死後、鎌倉幕府の支配はどのようになったかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北条氏による執権政治。 ・御成敗式目の制定。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">承久の乱後、幕府の力は西国まで及ぶようになり、執権の北条氏を中心とした幕府は法律や裁判制度を整えた。</p>

	7	<p>○元との戦いやその後の鎌倉幕府の様子について調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士たちは、元軍の集団戦術や火薬兵器などに苦しみながら、恩賞を得るために一所懸命に戦った。 ・鎌倉幕府は、元との戦いで活躍した武士たちに新しい領地を与えることができず、ご恩と奉公の関係で結びついていた幕府と武士の信頼関係がくずれていった。 <p>元は日本に服従を求めてきたが北条氏が退けた。全国から集まった武士は恩賞を得るために一所懸命に戦ったが、領地を与えられず、幕府と武士の関係が崩れた。</p>
まとめる	8	<p>○年表を見ながら、武士の発生から元寇までの学習をふりかえり、ノートにまとめる。</p> <p>源頼朝、義経の働きによって武士による政治が始まり、頼朝は、千葉氏をはじめとする武士をご恩と奉公という主従関係によって統率した。しかし、元寇で恩賞を与えられなかった武士たちは不満をもち、幕府の力は弱まった。</p>

8 市教研社会科研究主題のための方策

市教研社会科研究主題

変貌する未来を切り拓く社会科学習 ～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

《本年度主題解明のための方策》

- ① 「深い学び」の基盤となる、学習内容の工夫
- ② 社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫
- ③ 生徒や授業者が「手応えの発見」につながったかを見取る評価方法の工夫

本小単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

- ① 「深い学び」の基盤となる、学習内容の工夫

○地域の偉人である千葉氏の活用

本小単元では、武士による政治がはじまったことを理解することが大切である。そのためには、当時の土地をめぐる状況を理解することが必要である。千葉氏は、源頼朝を助け、鎌倉幕府の成立に大きく貢献した武士である。頼朝に味方した経緯からは、当時の土地をめぐる状況というものがよく分かり、頼朝と関東の武士たちの結びつきを考えていく上で非常に適切な素材になると考えた。

千葉常胤は、平氏による政治により、父から受け継いだ相馬御厨（現在の柏市、流山市付近の土地）を平氏によって取り上げられ、平氏の政治に非常に強い不満をもっていた。打倒平氏を目指して挙兵した頼朝は、石橋山の戦いに敗れた後、真っ先に頼朝に味方をし、庇護をしたのが千葉常胤である。なぜ落ち延びていた頼朝に味方をしたのかを考えることで、児童は平氏の政治が貴族化して、関東の武士が不満をもっていたことや、

源頼朝が源氏の頭領として、期待をもって迎えられていたことを理解することができるだろう。

また、千葉氏は、頼朝へ鎌倉に幕府を開くように助言し、頼朝の死後、北条氏の力が強まり有力な御家人が滅ぼされる中、一貫して下総の守護を務めるとともに、全国に散在する領地の支配も続け、幕府内で高い地位を保ち続けた。のちの元寇の際にも九州に遠征し、元との戦いに奮戦するなど、鎌倉幕府を支えた有力な御家人の筆頭である。児童にとって郷土である千葉市とつながりが深い千葉氏について詳しく学習し、その業績を理解することにより、歴史を自分とのつながりを感じ、主体的に学ぼうとするだろう。

② 社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫

○関連付けて考えたり、既習を根拠にして考えたりする資料提示の工夫

本学級の児童は、資料を関連付けて考えたり、精査して自分の考えをもったりという活動が苦手である。また、歴史を学ぶ際に、自分の生活とはかかわりがないと考えている児童もあり、歴史の学習では資料の読み取りに苦手意識をもっている。そこで、本時では、源頼朝が石橋山の戦いから再起するまでの場面を漫画の資料として提示する。漫画にすることで、児童には当時の武士の行動や思いを読み取ることが容易になる。また、当時の関東の武士の勢力図や年表を併せて提示する。それらの資料を関連付けて見ることにより、頼朝の勢力が急激にふくらんでいった様子や当時の武士が平氏に強い不満を感じていたことが考察できるだろう。

9 本時の指導（3 / 8）

（1）本時の目標

- 平氏による政治に不満をもった武士たちが、頼朝に協力していったことについて資料を活用し読み取っている。 （技能）
- 源平の戦いで、源氏が平氏に勝利した理由を考え、多くの武士が領地を認められる新しいかしらを求めて頼朝に従ったことや、千葉氏の働きがあったことを表現している。 （思考・判断・表現）

（2）本時の展開

学習活動と内容	○教師の支援 ◆評価の観点	資料
1 前時の振り返りをする。 ・平氏が力をつけて勢力をのぼしていった。 ・源氏が敗れた。 2 勢力を失っていた源氏が再興し、平氏を倒すまでになったことを知る。 ・石橋山の戦いで頼朝が惨敗した ・7騎しか残っていない。 ・鎌倉に着いたときに4万騎になっている。 3 学習問題をたてる。	○前時までの学習での、石橋山の戦いで源氏が敗れたことを想起できるよう声掛けをする。 ○頼朝が残った7騎で逃げ延びたこと、鎌倉に着いた時点での勢力がわかるように、パワーポイントで提示する。 ○石橋山の戦いから鎌倉に着くまでの流れを全員で確認しながら板書していく。	パワーポイント（勢力の変化図・絵巻の絵）
頼朝はなぜ勢力を拡大することができたのだろうか。		
4 個人で予想をたて、グループで交流する。 ・強い武士を仲間にした。 ・平氏のやり方がよくなかった。 ・たくさんの仲間ができた。	○7騎の頼朝の軍勢が、なぜ仲間を増やすことができたのか発問し、人物や政治に目を向けられるようにする。 ○個人で考えた後、それぞれが立てた予想についてグループで話し合い、いろいろな考えに触れられるようにする。 ○予想がたてられなかった児童には、友達の意見から予想をたててもよいことを伝える。	
5 資料から読み取る。 ・千葉氏の土地が奪われた。 ・常胤の息子の頼胤が頼朝の仲間	○グループで話し合うことで、いくつかの理由を考えられるようにする。 ○歴史マンガを使用することで、読み	千葉の歴史（上総氏と千葉氏・源

<p>だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広重も平氏に不満をもっていた。 ・ 頼朝が常胤を頼っていた。 <p>6 読み取ったことを発表しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の所有権を平氏に奪われて千葉氏は不満があった。 ・ 平氏に不満のあった武士たちが仲間になった。 ・ 常胤が仲間になってから頼朝の仲間が増えた。 ・ 土地を補償することで、不満をもっていた関東の武士たちを仲間にした。 <p>7 学習問題のまとめをする。</p>	<p>取りが苦手な児童でも入りこみやすいようにする。</p> <p>○ 資料から読み取れない児童には、予想した観点から探してみるように伝える。</p> <p>◆ 平氏による政治に不満をもった武士たちが、頼朝のもとに協力していったことについて資料を活用し読み取っている。(技能)</p> <p>○ 読み取ったことを全体に向けて発表する際に、資料のどこからそのことについて読み取ったのかを示して発表するよう声掛けをする。</p> <p>◆ 源平の戦いで、源氏が仲間を増やした理由を考え、平氏への不満をもった多くの武士が、領地を認めてくれる新しいかしらを求めて頼朝に従ったことや、千葉氏の働きがあったことを表現している。 (思・判・表)</p>	<p>頼朝と房総の武士) 関東武士団の分布図 日本の歴史「鎌倉への進軍」</p>
<p>頼朝は、千葉氏など平氏に不満のある武士を仲間にして勢力を拡大した。</p>		
<p>8 次時の見通しをもつ。</p>	<p>○ 学習問題を確認し、それに対応するようなまとめを考えるよう、声掛けをする。</p> <p>○ 次時について</p>	